

2017年度 決算説明会

はじめに

- 1 2017年度 決算
 - 2 2018年度 業績予想
- (参考) 会社概要等

2018年5月23日
タツタ電線株式会社

**本資料における将来の予測等に関する各記述は、
当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、
リスク及び不確実性が含まれております。
したがって、実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**

**本資料に関するお問い合わせ先
タツタ電線株式会社
経営企画部**

TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300

<http://www.tatsuta.co.jp/>

1 2025長期ビジョンの概要

【定性的目標】 電線・電子材料関連のフロンティアを開拓し、ニッチトップのサプライヤーとなり、独創的な先端部品・素材を供給する。

【定量的目標】 高い収益率を維持しつつ、現状の1桁上の規模（売上高1,000億円、営業利益100億円）を併せ持つ。

【事業戦略】

成長追及	ペースト、医療機器関連部材
中長期育成	機器用電線（国外）
利益追求	通信電線、機器用電線（国内） 機能性フィルム、FW、シスフォト、環境分析

【2025に向けたロードマップ】

期 間	第1次中計期間 (17-19)	第2次中計期間 (20-22)	第3次中計期間 (23-25)
課題	基盤整備期間	新製品量産化期間	新製品増産収益貢献期間
投融资枠	* 3年間 210億円 (3年間累計 210億円)	3年間 240億円 (6年間累計 450億円)	3年間 280億円 (9年間累計 730億円)
目標 営業利益	19年度 50億円	22年度 70億円	25年度 100億円

(* 留保枠3ヵ年合計120を含む)

2 17年度決算・18年度業績予想の概要・評価

(単位: 億円)

	16年度	17年度	18年度	19年度	17年度			18年度		
	実績	中計	中計	中計	実績	対16実	対17中	見通し	対17実	対18中
売上高	491	525	550	580	552	○61	○27	600	○48	○50
営業利益	43	44	47	54	50	○7	○6	50	-	○3
うち電線ケーブル	12	12	15	18	10	×2	×2	16	○6	○1
うち電子材料	36	37	37	38	48	○12	○11	41	×7	○4
当期純利益	33	30	32	36	37	○4	○7	35	×2	○3
資本的支出合計	23	* 76	* 59	* 78	27	+4	▲49	50	+23	▲9
					(※ 留保枠3カ年合計120を含む)					
従業員数	795	858	912	950	852	+57	▲6	930	+78	+18

- ・ 17・18年度は、中計目標営業利益を上回る利益を上げつつ、長期ビジョンの達成に向けた事業基盤の整備…利益追求事業の収益力強化と成長追求事業の新製品開発…を着実に進捗させた。タツタ電線グループ長期ビジョンは、順調なスタートを切ることができたものと評価している。
- ・ ただし、未だ初年度が経過したのみ。今後、グループの総力を挙げて、長期ビジョン達成に当たる。

1 2017年度 決算

1-1 2017年度決算、2018年度業績予想概要

【2017年度決算】

- **3年ぶりの増収(○61億円)、増益(営業利益○8億円)。**
 - **対中期計画でも増収(○27億円)、増益(営業利益○6億円)**
- 電線ケーブル事業は、銅価高により売上は増加したが、諸コスト増により、対前期、対中期計画とも減益。
- 電子材料事業は、携帯端末向けシールドフィルム需要が一時的要因を含め高水準であったことから、対前期、対中期計画とも増収、増益。

【2018年度業績予想】

- 各種電線販売量増、販売構成改善の進展等により、電線ケーブル事業収支は、対前期増益とともに中期計画水準に復帰。
- フィルム販売は前期の一時需要がなくなり、対前期では減益だが、端末高機能化等によるベース需要の底上げもあり、対中期計画に対して増益。
- **以上の結果、概ね前期並みの利益水準を確保しつつ、対中期計画では増益予想。**

1-2 2017年度決算、2018年度業績予想主要条件

項目	2017年度 実績	2018年度 予想	備考
電気銅建値	757千円/t	800千円/t	2016年度銅建値:604千円/t 2017年度銅建値:期首 690千円/t 期中最高値 850千円/t 期末 740千円/t 2017-19中期計画銅建値:650千円/t
電線販売量伸び率	+1%	+13%	インフラ向け、対前期比
(うち中国) 機器用電線売上	(3億円) 68億円	(6億円) 77億円	電線ケーブルセグメント内数 16年度実績:57億円(2億円)
フィルム販売量伸び率	+18%	▲8%	対前期比

注1) 電気銅建値は電線ケーブル製品売上高、原料代に影響

注2) インフラ用途電線販売は国内のみ。フィルム販売の9割は円建て。→ 為替変動影響少

2-1 (対前期)2017年度実績収支

(単位:百万円)

	2016年度	2017年度	増減	備考
売上高	49,114	55,194	+ 6,079	P10参照
(営業利益率) 営業利益	(8.7%) 4,286	(9.1%) 5,047	+ 760	P10参照
経常利益	4,368	5,219	+ 850	
特別損益	-	▲ 206	▲ 206	常州タツタ設備減損等 *内訳決算補足資料参照
(1株当り) (円) 当期純利益	(52.79) 3,324	(59.52) 3,677	+ 352	

2-2 (対前期)セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

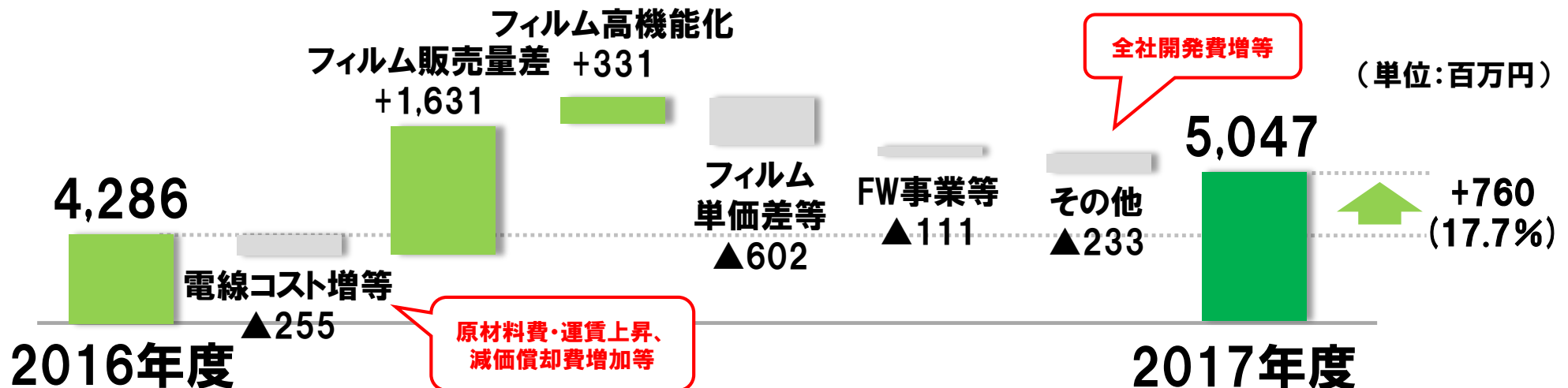
		2016年度		2017年度		差異等	
		金額	構成比	金額	構成比	増減額	前期比
	電線ケーブル	28,466	58%	32,621	59%	+ 4,154	115%
	電子材料	18,974	39%	20,902	38%	+ 1,928	110%
	その他	1,674	3%	1,671	3%	▲ 3	100%
売上高		49,114		55,194		+ 6,079	112%
	電線ケーブル	1,205	28%	949	19%	▲ 255	79%
	電子材料	3,559	83%	4,808	95%	+ 1,248	135%
	その他	▲ 478	▲ 11%	▲ 710	▲ 14%	▲ 233	51%
営業利益		4,286		5,047		+ 760	118%

2-3 (対前期)売上高、営業利益増減要因

売上高



営業利益



3-1 (対公表値)2017年度実績収支

(単位:百万円)

	2017年度	公表値	増減	備考
売上高	55,194	55,000	+ 194	P13参照
(営業利益率) 営業利益	(9.1%) 5,047	(9.3%) 5,100	▲ 52	P13参照
経常利益	5,219	5,200	+ 19	
特別損益	▲ 206	▲ 210	+ 4	常州タツタ設備減損等 *内訳決算補足資料参照
(1株当り) (円) 当期純利益	(59.52) 3,677	(58.27) 3,600	+ 77	

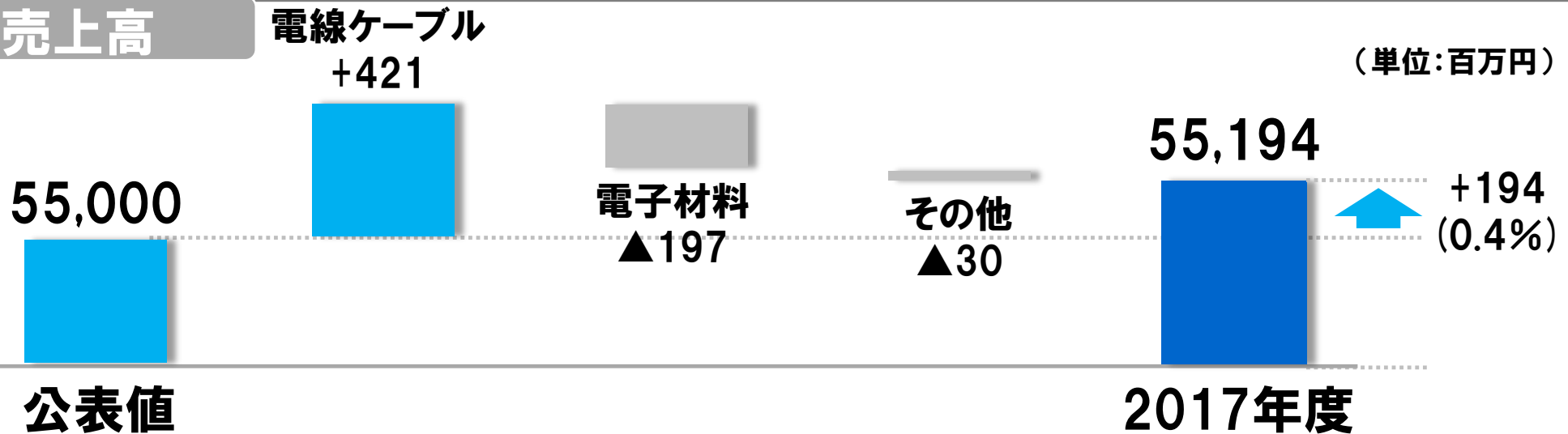
3-2 (対公表値)セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

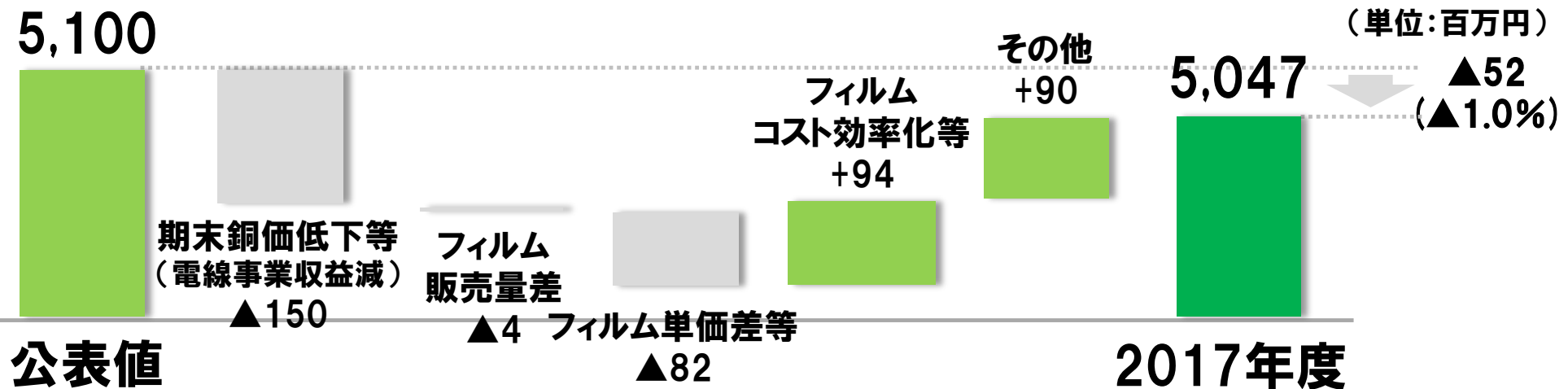
	2017年度		公表値		差異等	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	公表比
電線ケーブル	32,621	59%	32,200	59%	+ 421	101%
電子材料	20,902	38%	21,100	38%	▲ 197	99%
その他	1,671	3%	1,700	3%	▲ 30	98%
売上高	55,194		55,000		+ 194	100%
電線ケーブル	949	19%	1,100	22%	▲ 150	86%
電子材料	4,808	95%	4,800	94%	+ 8	100%
その他	▲ 710	▲ 14%	▲ 800	▲ 16%	+ 90	111%
営業利益	5,047		5,100		▲ 52	99%

3-3 (対公表値)売上高、営業利益増減要因

売上高



営業利益



4-1 (対中期計画)2017年度実績収支

(単位:百万円)

	2017年度	中期計画	増減	備考
売上高	55,194	52,500	+ 2,694	P16参照
(営業利益率) 営業利益	(9.1%) 5,047	(8.4%) 4,400	+ 647	P16参照
経常利益	5,219	4,300	+ 919	
特別損益	▲ 206	-	▲ 206	常州タツタ設備減損等 *内訳決算補足資料参照
(1株当り) (円) 当期純利益	(59.52) 3,677	(48.56) 3,000	+ 677	

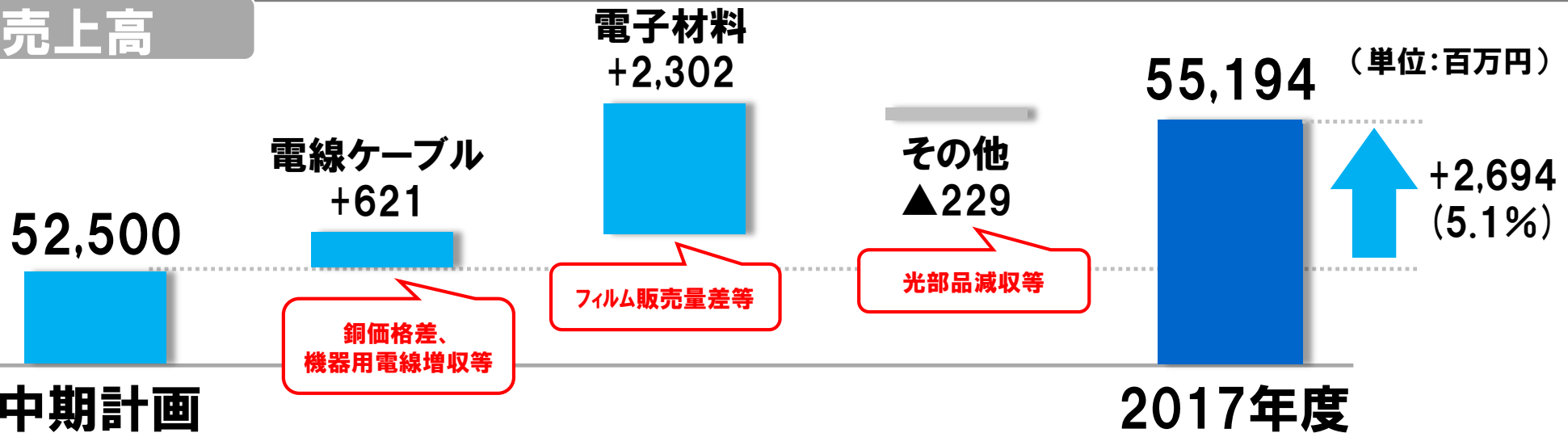
4-2 (対中期計画)セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

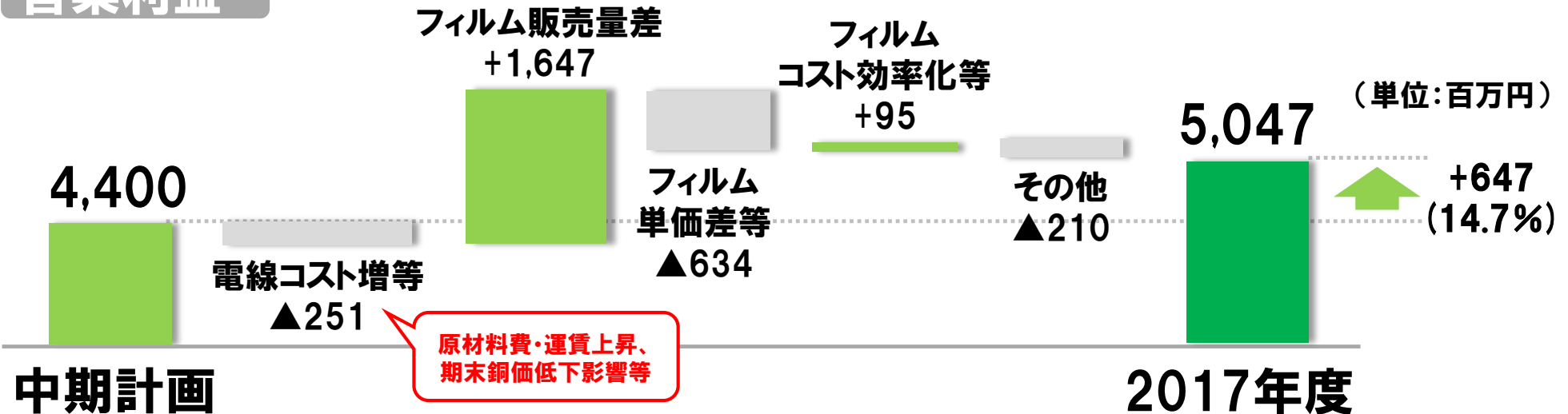
		2017年度		中期計画		差異等	
		金額	構成比	金額	構成比	増減額	中期計画比
	電線ケーブル	32,621	59%	32,000	61%	+ 621	102%
	電子材料	20,902	38%	18,600	35%	+ 2,302	112%
	その他	1,671	3%	1,900	4%	▲ 229	88%
売上高		55,194		52,500		+ 2,694	105%
	電線ケーブル	949	19%	1,200	27%	▲ 251	79%
	電子材料	4,808	95%	3,700	84%	+ 1,108	130%
	その他	▲ 710	▲ 14%	▲ 500	▲ 11%	▲ 210	58%
営業利益		5,047		4,400		+ 647	115%

4-3 (対中期計画)売上高、営業利益増減要因

売上高



営業利益



5 貸借対照表

(単位:百万円)

	2017年3月末	2018年3月末	増減	備考
流動資産	32,258	36,011	+3,752	売掛債権増(期末休日影響含み)、棚卸資産増等
固定資産	14,887	15,469	+582	当期設備投資支出:27億円
資産計	47,145	51,480	+4,335	
流動負債	6,571	8,337	+1,765	買掛金増、未払法人税増等
固定負債	2,421	1,737	▲683	退職給付に係る負債減等
負債計	8,992	10,074	+1,081	
純資産計	38,153	41,406	+3,253	
ROA	9.5%	10.6%		総資産経常利益率
ROE	9.0%	9.2%		自己資本当期純利益率
自己資本比率	80.9%	80.4%		
年間配当	12円/株	15円/株		2018/3月期は予定

*2019/3月期年間配当予想:16円/株

6 キャッシュフロー、設備投資

(単位:百万円)

	2016年度 実績	2017年度 実績
営業CF	5,411	1,545
投資CF	▲4,092	▲683
設備投資	▲2,360	*1) ▲2,578
その他	▲1,732	*2) 1,895
財務CF	▲1,660	▲831
CF合計	▲341	31
(減価償却)	(1,596)	(1,695)

*1) CF計算書表示ベース(未払金等含まず、実質27億円)

- ・各種電線能力増強および効率化投資等;15億円
- ・機能性材料(フィルム・ペースト)各種開発投資等;4億円

*2) 短期貸付金減少等

2 2018年度 業績予想

1 (対2017実績)2018年度予想収支

(単位:百万円)

	2017実績	2018予想			増減
		上期計	下期計	年度計	
売上高	55,194	30,100	29,900	60,000	+ 4,805
(営業利益率) 営業利益	(9.1%) 5,047	(9.1%) 2,750	(7.5%) 2,250	(8.3%) 5,000	▲ 47
経常利益	5,219	2,750	2,250	5,000	▲ 219
特別損益	▲ 206	▲ 30	▲ 100	▲ 130	+ 76
(1株当り) (円) 当期純利益	(59.52) 3,677	(32.37) 2,000	(24.28) 1,500	(56.65) 3,500	▲ 177

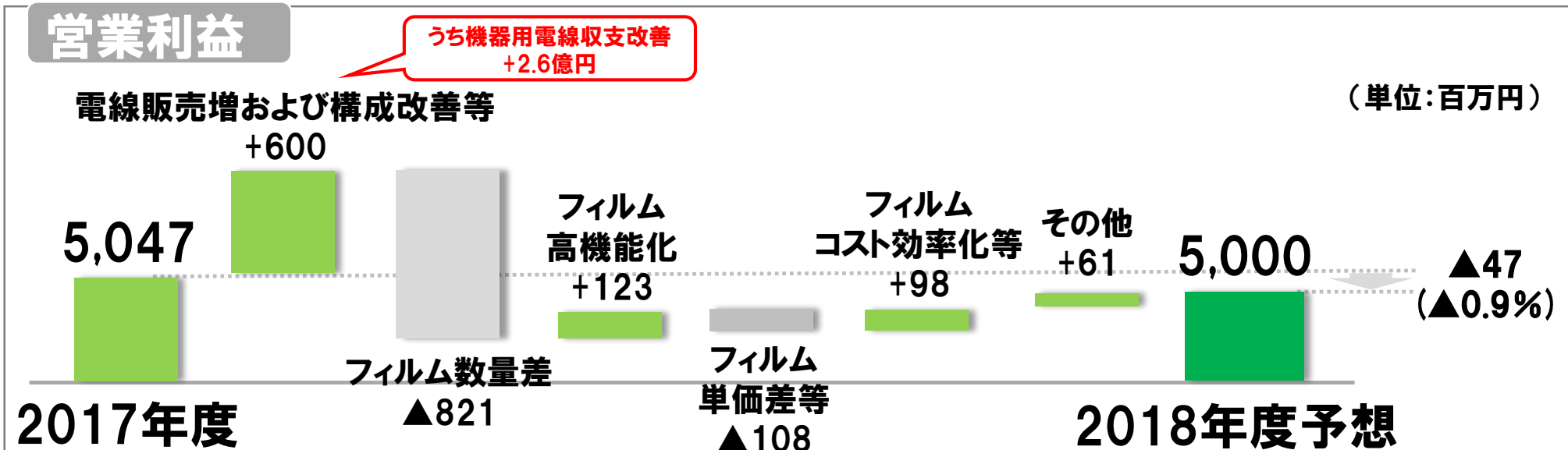
←季節差→

2-1 (対2017実績)セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

		2017実績		2018予想		差異等	
		金額	構成比	金額	構成比	増減額	前期比
	電線ケーブル	32,621	59%	38,000	64%	+ 5,378	116%
	電子材料	20,902	38%	20,000	33%	▲ 902	96%
	その他	1,671	3%	2,000	3%	+ 329	120%
売上高		55,194		60,000		+ 4,805	109%
	電線ケーブル	949	19%	1,550	31%	+ 600	163%
	電子材料	4,808	95%	4,100	82%	▲ 708	85%
	その他	▲ 710	▲ 14%	▲ 650	▲ 13%	+ 61	109%
営業利益		5,047		5,000		▲ 47	99%

2-2 (対2017実績)売上高、営業利益増減要因



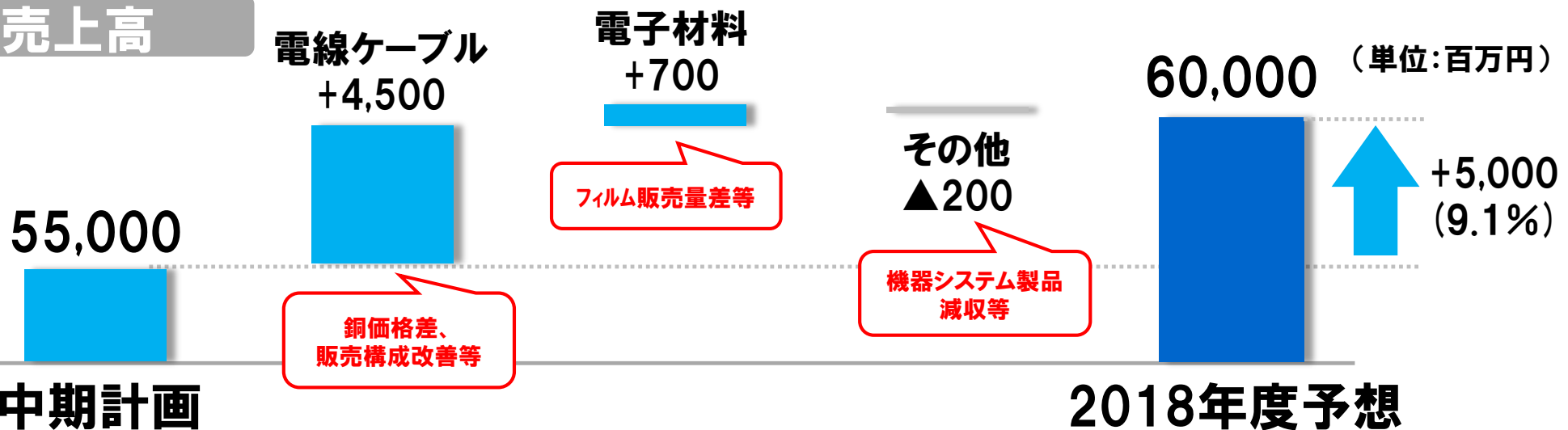
3-1 (対2018中期計画)セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

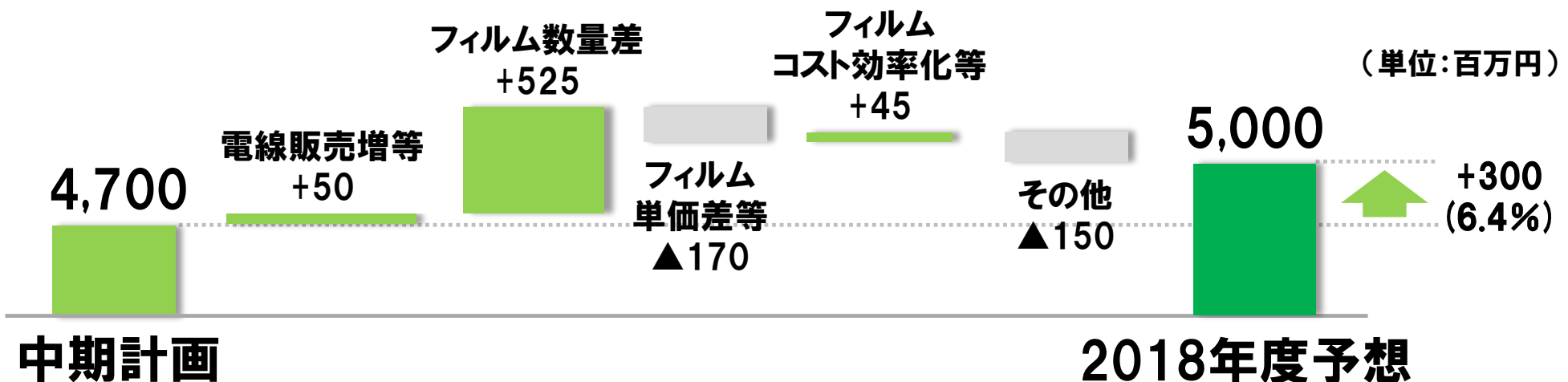
		2018予想		2018中期計画		差異等	
		金額	構成比	金額	構成比	増減額	中期計画比
	電線ケーブル	38,000	64%	33,500	61%	+ 4,500	113%
	電子材料	20,000	33%	19,300	35%	+ 700	104%
	その他	2,000	3%	2,200	4%	▲ 200	91%
売上高		60,000		55,000		+ 5,000	109%
	電線ケーブル	1,550	31%	1,500	32%	+ 50	103%
	電子材料	4,100	82%	3,700	79%	+ 400	108%
	その他	▲ 650	▲ 13%	▲ 500	▲ 11%	▲ 150	70%
営業利益		5,000		4,700		+ 300	106%

3-2 (対2018中期計画)売上高、営業利益増減要因

売上高



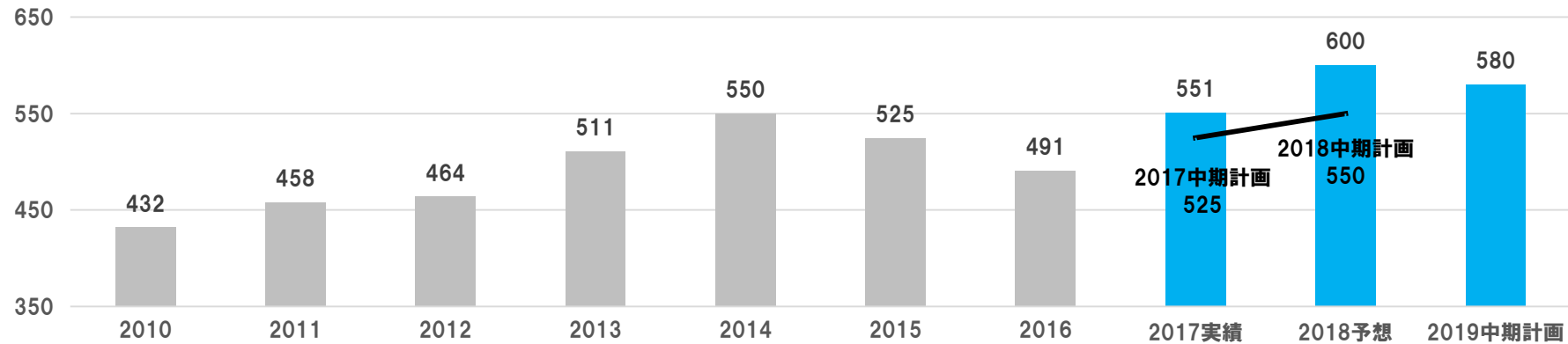
営業利益



4-1 2017-19年度中期計画進捗状況

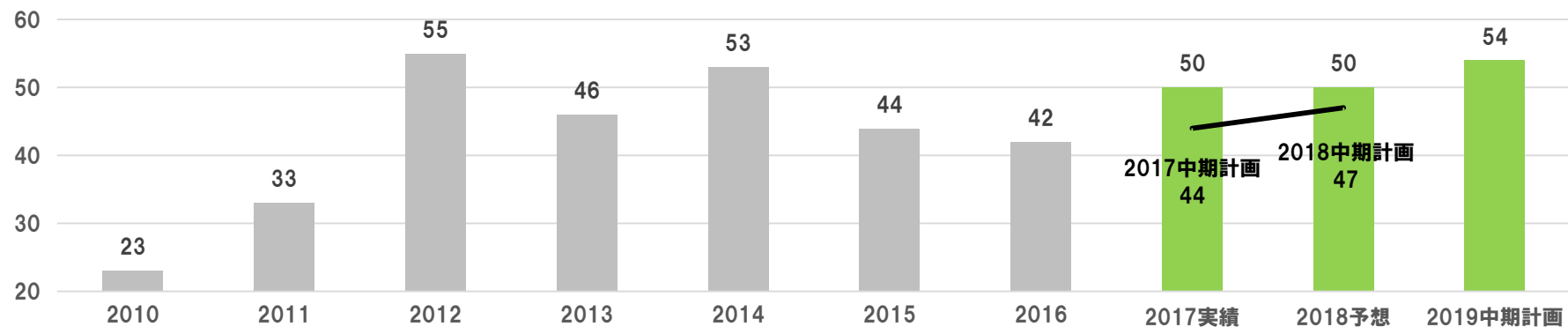
売上高

(単位: 億円)



営業利益

(単位: 億円)



4-2 2017-19年度中期計画進捗状況

(単位:百万円)

		2017中期計画	2017実績	2018中期計画	2018予想	2019中期計画
	電線ケーブル	32,000	32,621	33,500	38,000	35,000
	電子材料	18,600	20,902	19,300	20,000	20,300
	その他	1,900	1,671	2,200	2,000	2,700
売上高		52,500	55,194	55,000	60,000	58,000
	電線ケーブル	1,200	949	1,500	1,550	1,800
	電子材料	3,700	4,808	3,700	4,100	3,800
	その他	▲500	▲710	▲500	▲650	▲200
営業利益		4,400	5,047	4,700	5,000	5,400
当期利益		3,000	3,677	3,200	3,500	3,600

4-3 2017-19年度中期計画進捗状況

総括: 次のとおり2019年度マイルストーン目標達成の目処を得つつある状況

- ◎利益追求事業は総じて収益基盤底上げ達成(フィルム、国内機器用電線等)
- 成長追求事業については、足元一部製品の市場投入時期に若干の遅れはあるが、2019年度マイルストーン目標に向けた新製品開発を積極推進中

* 中計主要課題一覧

電線ケーブル

【利益追求】

- ① 通信電線事業(インフラ用途)の効率化継続および一層の販売構成改善
- ② 機器用電線事業(国内、子会社含み)の一層の収益基盤強化、シナジー効果の追求

【中長期育成】

- ① 海外機器用電線事業の基盤確立および本格販売立上げ

電子材料

【成長追求】

- ① ペースト製品新規用途のデファクトスタンダード化、周辺用途への採用拡大

【利益追求】

- ① フィルム事業のシェア維持と収益性確保
- ② ファインワイヤ事業のグローバル化と国内市場での拡販

その他

【成長追求】

- ① 医療機器部品・材料事業の製品ラインナップ拡大および販売立上げ

【利益追求】

- ① 機器システム製品、光部品、環境分析事業の収益維持・拡大

4-4 事業課題進捗状況(電線ケーブル)

セグメント総合評価:○

- ・ 各種基盤強化策を計画どおり推進。
- ・ 2017年度セグメント収支はコスト増や一時的要因から一時的に未達だが、2018年度には計画線に復帰見込み。

インフラ用途電線の収益力強化:○

- ・ 直需製品の拡販等販売構成改善を計画どおり推進。
- ・ 高付加価値品対応投資、合理化投資等を予定どおり推進。

機器用電線事業の基盤強化、海外事業収支立上げ:○

- ・ 国内、海外とも基盤強化を計画どおり推進。
- ・ 海外(中国)販売も増加するが、対中期計画では約1年遅れ。収支未達は国内販売伸長でオフセット。

4-5 事業課題進捗状況(電子材料)

セグメント総合評価:◎

- ・ 2017年度は新モデルスマホ発売に伴う一時的需要増を確実に捕捉し、中期計画を大幅に上回る機能性フィルム販売を達成。
- ・ 2018年度以降も、端末高機能化に伴うベース需要の底上げに対応。

フィルム事業のシェア堅持と収益性確保:◎

- ・ 中国ブランドを含めスマホ向けシェアを着実に堅持。
- ・ 海外サポート拠点の活動強化、BCMS体制の構築、その他競合対策等を計画どおり推進。

その他の課題等:○

- ・ ペースト製品については半導体パッケージ、プリント配線板事業周辺分野での試作対応を継続展開中(2019年度ペースト製品売上見通:9億円)。
- ・ FWは国内販売環境激化の一方、マレーシアの黒字基調定着。

4-6 事業課題進捗状況(その他)

医療部材製品のラインナップ拡大、販売立上げ:○

- ・ 高機能チューブ類、シングルユース電極類、センシング機器類等の製品化に向けて、一部上市計画に若干の遅れが見られるものの、新製品開発を積極推進中(2019年度新規品売上見通:3億円)。

その他利益追求事業の収益拡大・維持:△

- ・ 計測機器向け光部品、ビル向け等機器システム製品販売が軟調推移。
- ・ 今後、海外向け拡販等によるキャッチアップを推進。

(参考) 会社概要等

(参考) 会社概要・グループ概要 (2018.4.1現在)

タツタ電線(株)

	(実績)
2017年度単体売上高	503億円
2017年度単体経常利益	53億円
2017年度末単体従業員	521人

通信電線事業本部

機器用電線事業本部

システムエレクトロニクス
事業本部機能性材料事業部
ファインワイヤ事業部
システムフォト事業部
医療機器事業推進室
ペースト事業推進室大阪工場
(東大阪市)テクニカルセンター
(木津川市)京都工場
(福知山市)仙台工場
(大和町)代取・社長
取締役・常務外池 廉太郎
西川 清明、高橋 靖彦、
柴田 徹也、辻 正人、
井手 兼造、森元 昌平、
前山 博

監査等委員取締役

小笠原 亨、津田 多間 (*),
安江 英行 (*), 花井 健 (*)

(*) 非常勤

【連結子会社】

(株)タツタ環境分析センター

タツタウェルフェアサービス(株)

中国電線工業(株)

立井電線(株)

17.6 100%化

常州拓自達恰依納電線有限公司

Tatsuta Electronic Materials
Malaysia Sdn Bhd

	(実績)
2017年度連結売上高	551億円
2017年度連結経常利益	52億円
2017年度末連結従業員	852人

【非連結子会社】

Tatsuta USA, Inc

上海拓自達商貿有限公司
(+蘇州技術中心)

(参考) 業績推移

【売上高・営業利益推移】

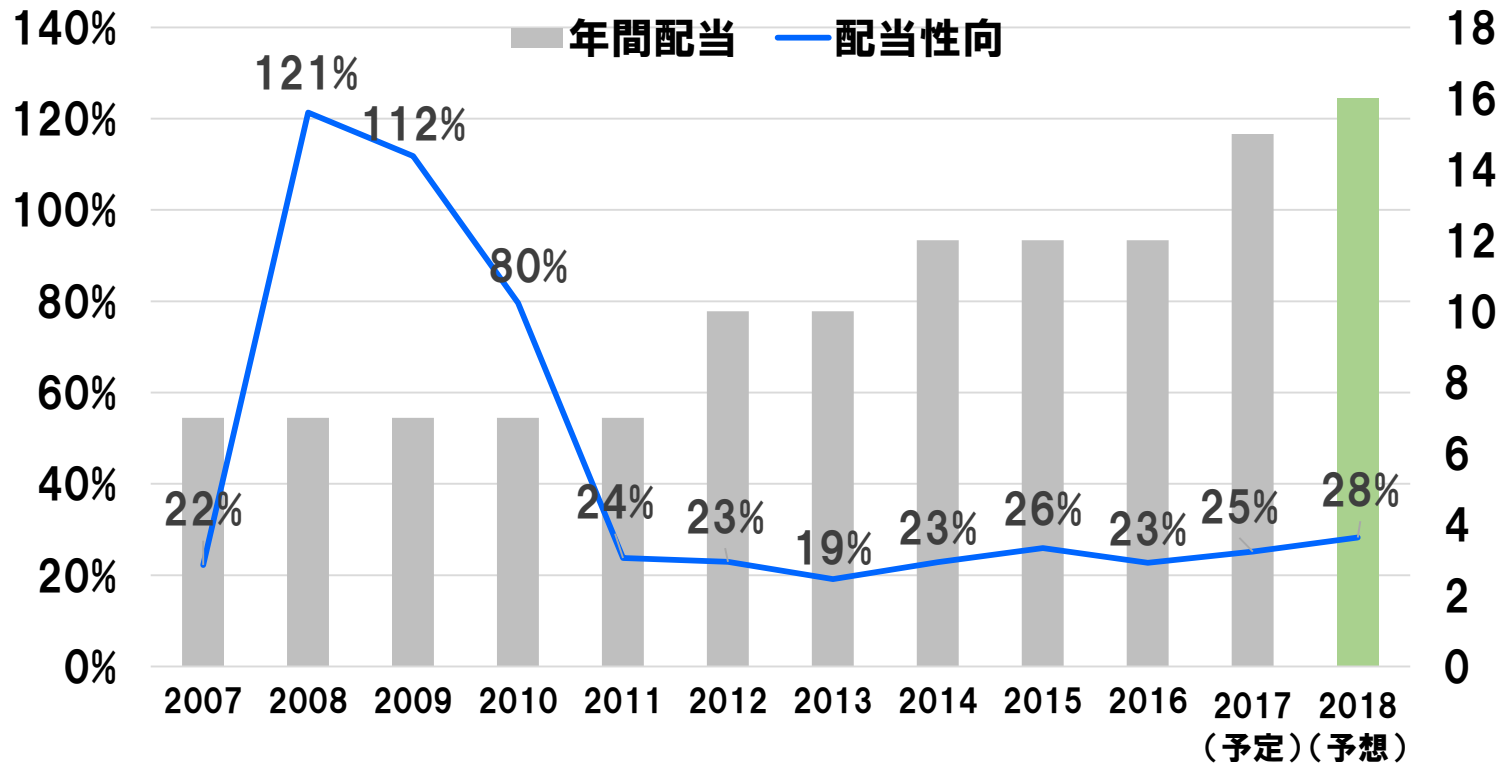
(億円)	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
売上高	363	489	508	444	354	432	458	464	511	550	525	491	551
営業利益	15	28	23	3	8	23	33	55	46	53	44	42	50

【財務指標等推移】

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
総資産 (億円)	386	421	446	446	471	514
自己資本 (億円)	295	315	347	360	381	414
売上高 (億円)	464	511	550	525	491	551
経常利益 (億円)	58	48	54	45	43	52
当期利益 (億円)	27	33	33	29	33	36
ROE (%)	9.8	10.9	10.1	8.3	9.0	9.2
ROA (%)	16.1	12.0	12.6	10.2	9.5	10.6
経常/売上 (%)	12.6	9.5	9.9	8.7	8.9	9.5

(参考) 配当推移

配当性向30%を目安としつつ、安定的な配当を継続することを基本とし、各年度の剰余金の配当等の決定は、業績の動向、設備投資の見通し等を総合的に勘案したうえで決定することを基本方針とする。



(参考) 経営理念等 (1/2)

【経営理念】

タツタ電線グループは、電線・電子材料関連分野において、顧客ニーズにマッチした特長ある製品・サービスを提供することにより、持続的な社会の発展に貢献します。

【経営基本方針】

タツタ電線グループは、

- ① 電線・ケーブル事業及び電子材料事業をコア事業とし、次代を担う事業の開発にも継続的かつ積極的に取り組み、活力・スピード感に溢れ、公正かつ透明性の高い連結経営を推進することにより、持続的に成長し、中長期的な企業価値を向上させるとともに、
- ② 地球環境問題に配慮しつつ、顧客ニーズにマッチした特長ある商品・サービスを提供することにより、持続的な社会の発展に貢献する。

【2025長期ビジョン方針】

タツタは、電線・電子材料関連のフロンティアを開拓して、ニッチトップのサプライヤーとなり、独創的な先端部品・素材を供給する。

(参考) 経営理念等 (2/2)

【企業行動規範】

タツタ電線グループは、

- 1 創意工夫を凝らし、不屈の精神をもって社会・顧客の求める技術・製品を開発し、有用で安全な優れた製品・サービスを提供します。
- 2 地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、経営の基本であることを認識し、事業活動のあらゆる面において環境と人との調和を目指します。
- 3 従業員の人格・個性を尊重し、安全で働きやすい多様性に富んだ職場環境を確保します。
- 4 株主、取引先、地域社会等の社外における関係者との間で、健全で良好な関係を築きます。
- 5 国内外の法令及び社内規程を遵守し、社会規範や倫理に則って公正な企業活動を行います。
- 6 企業活動に関する情報を適切かつ公正に開示して、経営の透明性を高めます。